

「健康日本 21 安城計画」

「いのち支える安城計画」

調査結果

(速報)

目次

第1章 アンケート調査

1. 調査概要	1
2. 調査結果	4
1. 健康に関する主観的評価（自分は健康かどうか・判断基準）	4
2. 個人の行動と行動していない理由の把握	8
3. ICTの活用	9
4. 社会とのつながり（孤独感）や暮らしぶりの状況	11
5. こころの健康	12
6. 健康日本21安城計画 指標の達成状況	21

第2章 eモニター調査

1. 調査概要	22
2. 調査結果	23
1. ストレスについて	24
2. 健康のための睡眠や休養	26
3. ゲートキーパーの認知	26

第3章 ヒアリング調査

1. 調査概要	27
2. 事業所ヒアリング調査	28
3. 児童クラブ	29
4. 母子保健担当者情報交換会	30

第1章 アンケート調査

1. 調査概要

■ 1 調査の目的

安城市では、平成25年度に策定した「第2次健康日本21安城計画」及び平成31年度に策定した「いのち支える安城計画（安城市自殺対策計画）」の最終評価及び次期計画を策定するにあたり、市民の健康観や生活習慣、メンタルヘルス、また各年代に応じた保健サービスへの市民のニーズを把握することを目的としてアンケートを実施しました。

■ 2 調査対象

市内に在住する以下の住民を調査対象としました。

対象者	年齢	抽出方法
①0歳4か月児 保護者	0歳4か月	各乳幼児健診の対象となる月齢の乳幼児
②1歳6か月児 保護者	1歳6か月	
③3歳児 保護者	3歳	
④5歳児 保護者	5歳	市内23園（保育園・こども園・幼稚園）の年長児各1クラス
⑤小学3年生	8歳	市内の小中学校の各1クラス
⑥小学3年生 保護者	—	
⑦小学6年生	11歳	
⑧小学6年生 保護者	—	
⑨中学3年生	14歳	
⑩中学3年生 保護者	—	
⑪未成年	15～17歳	15～17歳の市民360人を無作為抽出
⑫成人	18歳以上	18歳以上の市民3,640人を無作為抽出

■ 3 調査期間

①～③ 令和5年7月14日～8月21日

④～⑩ 令和5年7月11日～7月19日

⑪～⑫ 令和5年7月21日～8月10日

■ 4 調査方法

対象者	配布方法	回収方法
①～③0～3歳児 保護者	母子手帳アプリを通じて配信	WEBによる回収
④5歳児 保護者	各園を通じて保護者あてに配布	各園を通じて回収
⑤～⑩小学3年生・小学6年生・中学3年生及びその保護者	各小中学校を通じて配布	各小中学校を通じて回収
⑪～⑫未成年・成人	郵送	郵送・WEBによる回収

■ 5 回収状況

	平成29年調査			令和5年調査		
	配布数	有効	回収率	配布数	有効	回収率
		回収数	(%)		回収数	(%)
①0～3歳児 保護者	464	390	84.1	-	156	-
②1歳6か月児 保護者				-	233	-
③3歳児 保護者				-	178	-
①～③計	464	390	84.1	-	567	-
④5歳児 保護者	672	511	76.0	600	437	72.8
⑤小学3年生	613	608	99.2	600	551	91.8
⑥小学3年生 保護者	613	584	95.3	600	539	89.8
⑦小学6年生	676	670	99.1	670	616	91.9
⑧小学6年生 保護者	676	636	94.1	670	590	88.1
⑨中学3年生	287	278	96.9	310	241	77.7
⑩中学3年生 保護者	287	245	85.4	310	246	79.4
④～⑩計	4,288	3,922	91.5	3,760	3,220	85.6
⑪未成年	400	149	37.3	360	103	28.6
⑫成人	4,080	1,783	43.7	3,640	1,443	39.6
⑪⑫計	4,480	1,932	43.1	4,000	1,546	38.7

■ 6 調査結果の表示方法

- ・回答比率は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計（年代別集計など、複数項目の組み合わせで分類した集計のこと）の場合、「回答なし」を除外しているため、クロス集計の回答者数の合計と単純集計（全体）の回答者数が合致しないことがあります。
- ・グラフではnの数値が「件数」となっています。
- ・帯グラフにおいて、割合が 0.0%であった場合、表示を省略しています。
- ・表、グラフ等の見出しでの回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して記載している場合があります。
- ・回答者数が少ない設問については、回答比率が大きく変動するため、コメントをしていない場合があります。

2. 調査結果

1. 健康に関する主観的評価（自分は健康かどうか・判断基準）

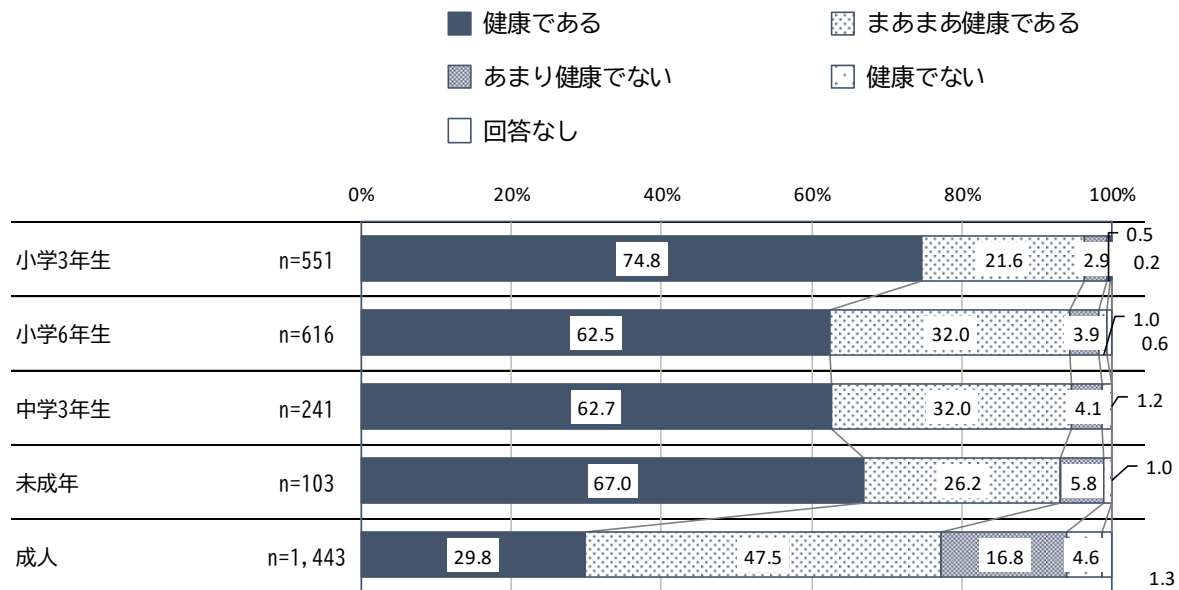
1.健康観

自分は健康だと思いますか。（1つに○）

“健康である”（「健康である」＋「まあまあ健康である」）

小学3年生：96.4%、小学6年生：94.5%、中学3年生：94.7%

未成年：93.2%、成人：77.3%



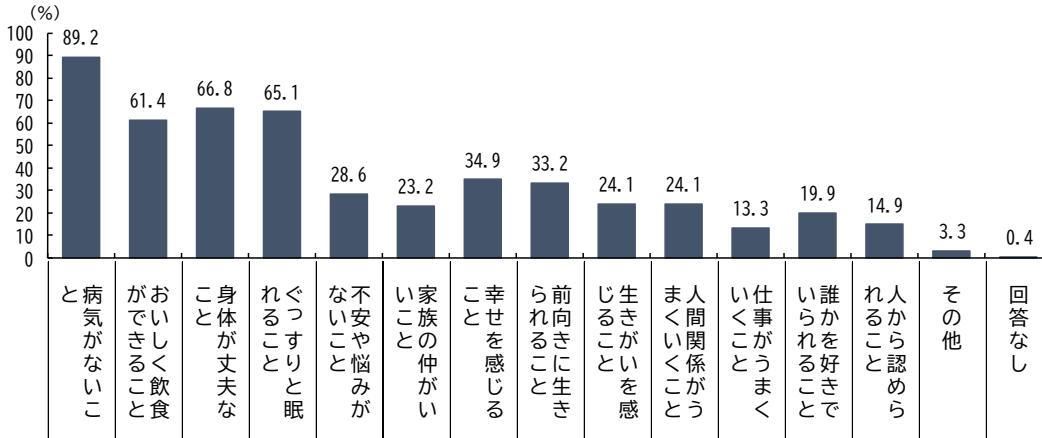
※成人のみ「健康だと思う」「まあまあ健康だと思う」「少し自信がない」「かなり自信がない」

2.健康の判断基準

「健康である」と判断する際に重視する項目はどれですか（あてはまるものすべてに○）

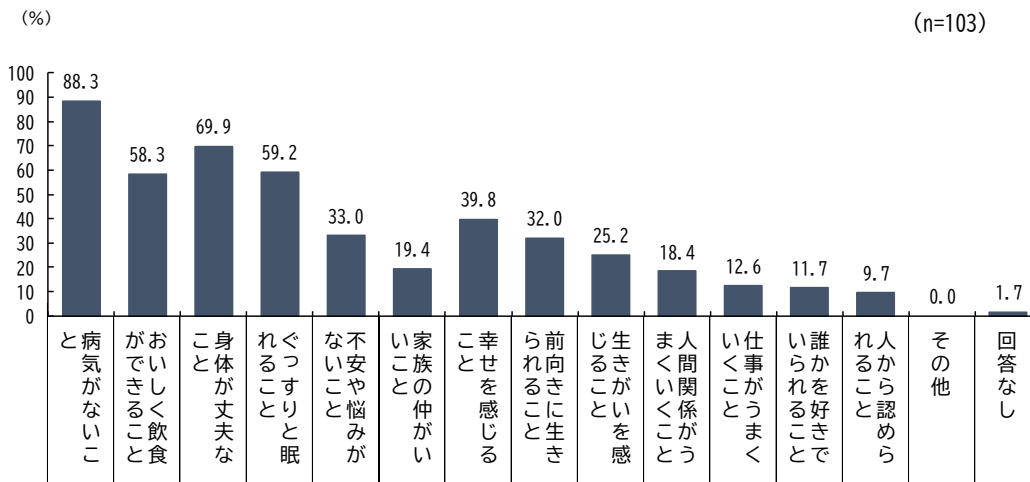
■ 中学3年生（本人）

第1位「病気がないこと」89.2% 第2位「身体が丈夫なこと」66.8%
第3位「ぐっすり眠れること」65.1% (n=241)



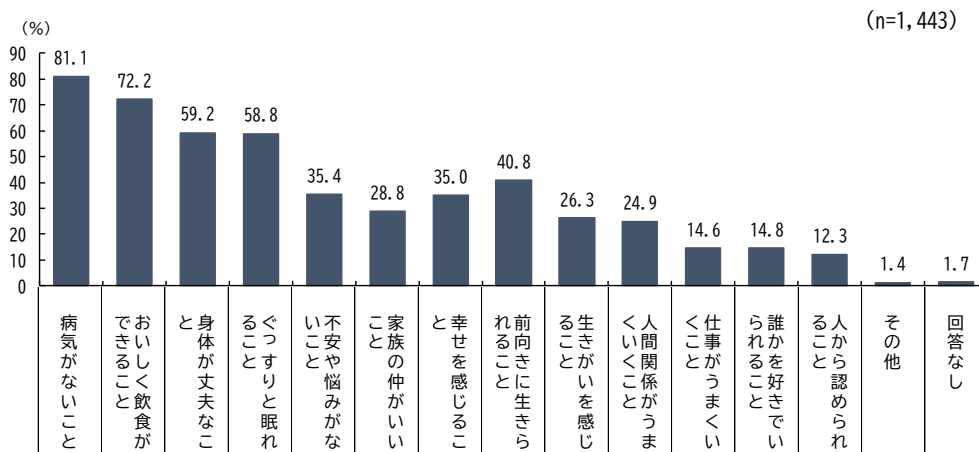
■ 未成年

第1位「病気がないこと」88.3% 第2位「身体が丈夫なこと」69.9%、
第3位「ぐっすり眠れること」59.2% (n=103)



■ 成人

第1位「病気がないこと」81.1% 第2位「おいしく飲食ができること」72.2%、
第3位「身体が丈夫なこと」59.2% (n=1,443)

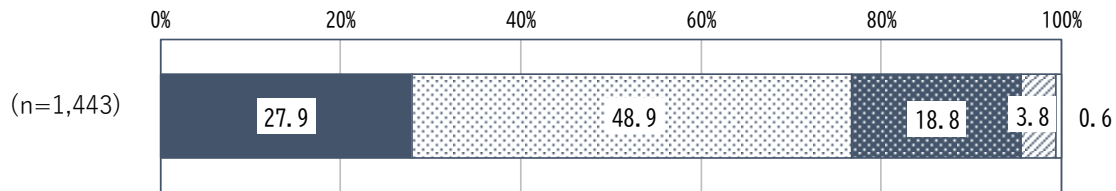


3.健康意識

■ 成人 あなたは日々の生活で健康を意識していますか。(1つに○)

“意識している”(「常に意識している」+「やや意識している」): 76.8%

■常に意識している □やや意識している ■あまり意識していない □まったく意識していない □回答なし

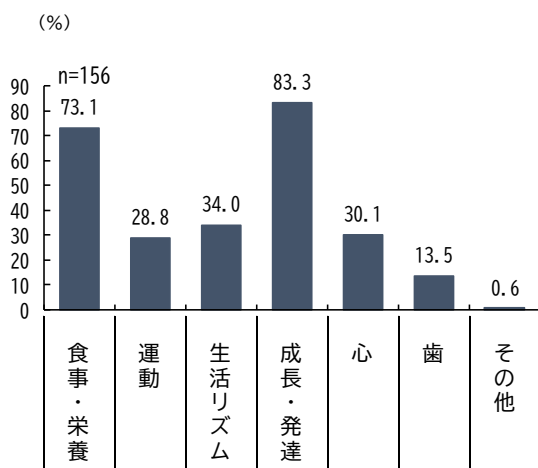


4.子どもの健康_関心のある内容(保護者)

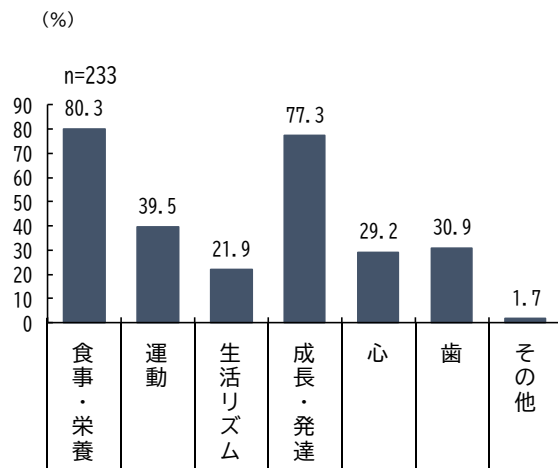
■ お子さんの健康について、特に関心のあるものは何ですか(3つまで○)

	1位	2位	3位
0歳4か月保護者	成長・発達(83.3%)	食事・栄養(73.1%)	生活リズム(34.0%)
1歳6か月保護者	食事・栄養(80.3%)	成長・発達(77.3%)	運動(39.5%)
3歳保護者	食事・栄養(69.7%)	成長・発達(69.1%)	心(36.5%)
5歳保護者	食事・栄養(61.8%)	成長・発達(51.0%)	心(49.0%)
小学3年生保護者	食事・栄養(59.7%)	心(49.9%)	成長・発達(40.4%)
小学5年生保護者	食事・栄養(55.8%)	心(52.7%)	成長・発達(50.0%)
中学3年生保護者	食事・栄養(63.4%)	心(53.7%)	生活リズム(50.0%)

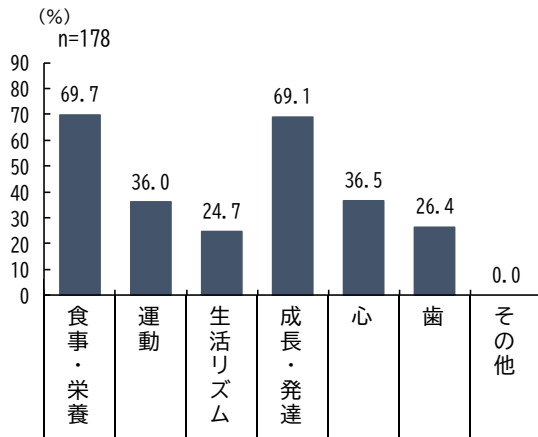
■ 0歳4か月保護者



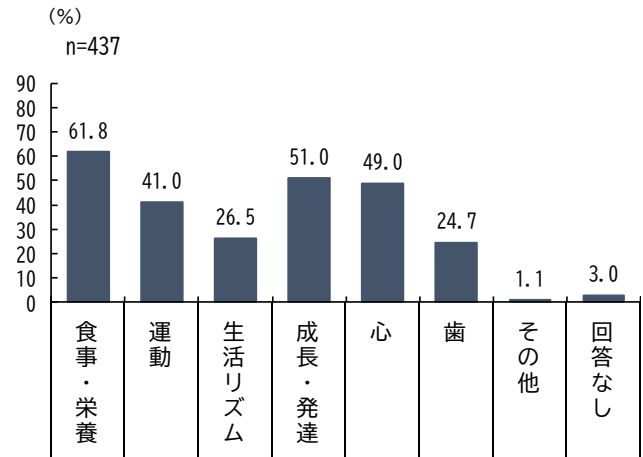
■ 1歳6か月保護者



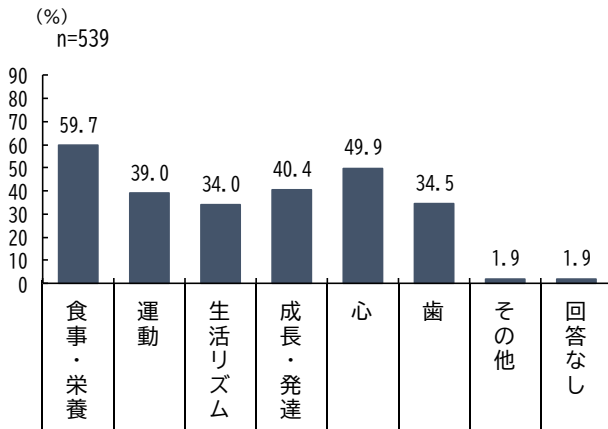
■ 3歳保護者



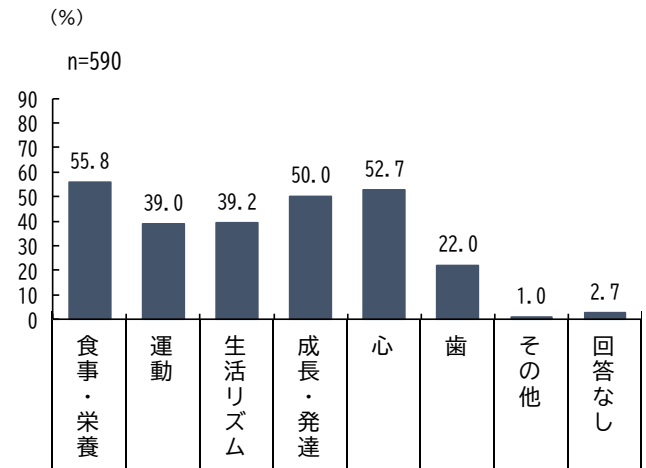
■ 5歳保護者



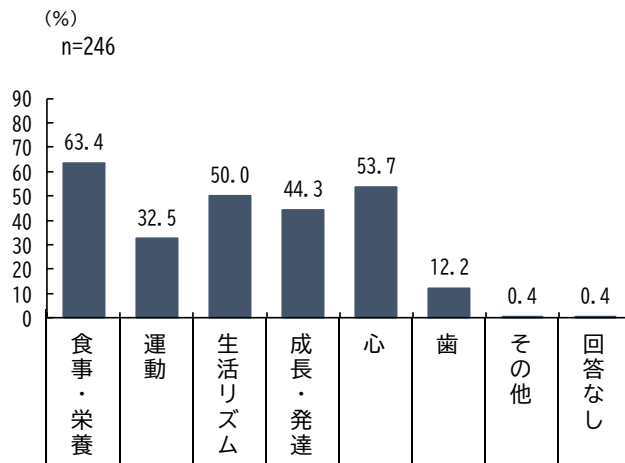
■ 小3保護者



■ 小5保護者



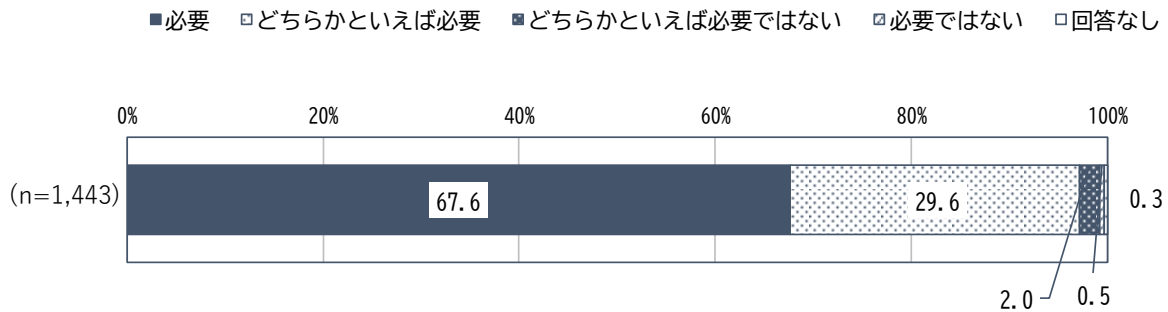
■ 中3保護者



2. 個人の行動と行動していない理由の把握

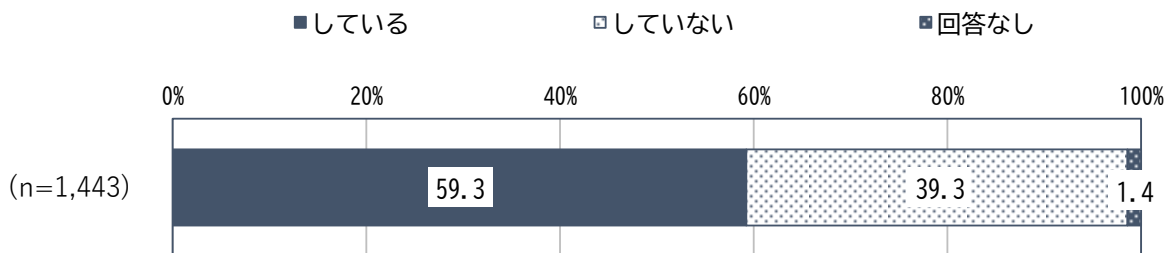
1. 健康と運動

- 成人 今後の生活において、健康のために運動や体を動かす必要があると思いますか。(1つに〇)
“必要”(「必要」+「どちらかといえば必要」): 97.2%



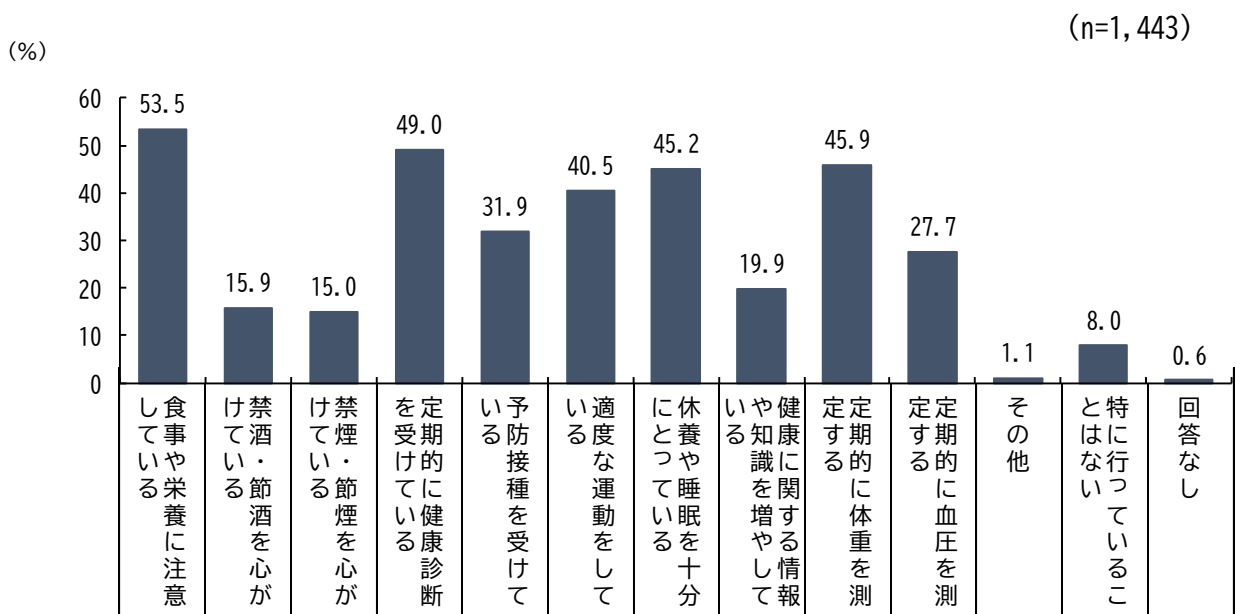
2. 健康行動

- 成人 あなたは日々の生活の中で健康のために行動していますか。(1つに〇)
「行動している」: 59.3%



3. 健康行動内容

- 成人 現在、健康のためにやっていることは何ですか。(あてはまるものすべてに〇)
第1位「食事や栄養に注意している」(53.5%)
第2位「定期的に健康診断を受けている」(49.0%)
第3位「定期的に体重を測定する」(45.9%)

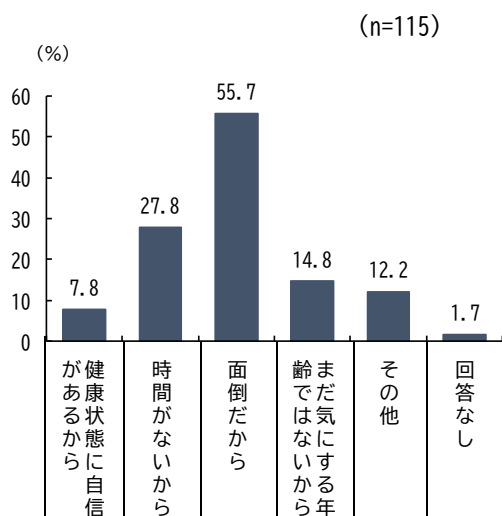


4. 行動していない理由

- 成人 「特に行っていることはない」理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

第1位「面倒だから」(55.7%)、第2位「時間がないから」(27.8%)

第3位「まだ気にする年齢ではないから」(14.8%)

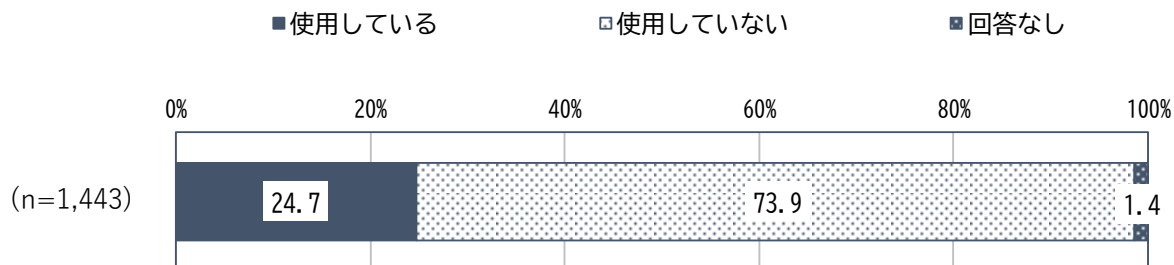


3. ICTの活用

1. 健康アプリ

- 成人 健康管理のためにスマートウォッチやスマホアプリを使用していますか。(1つに○)

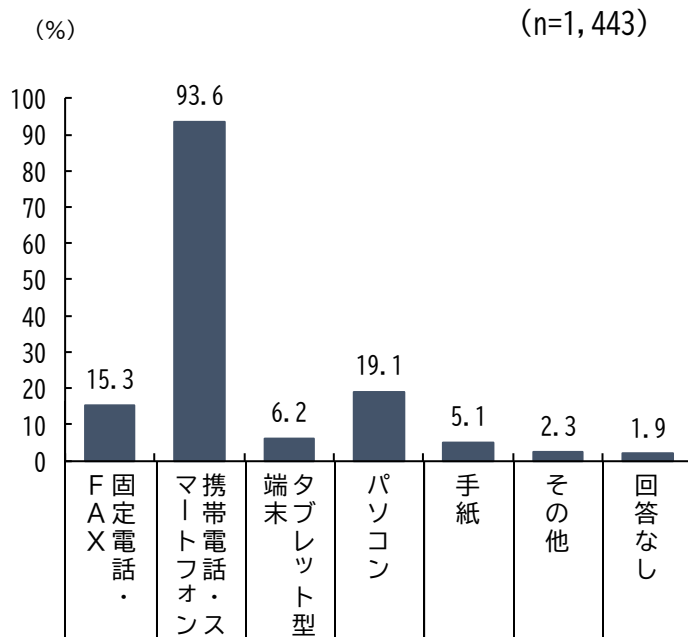
「使用している」24.7%



2.コミュニケーションツール

- 成人 あなたがコミュニケーションに使うツールはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

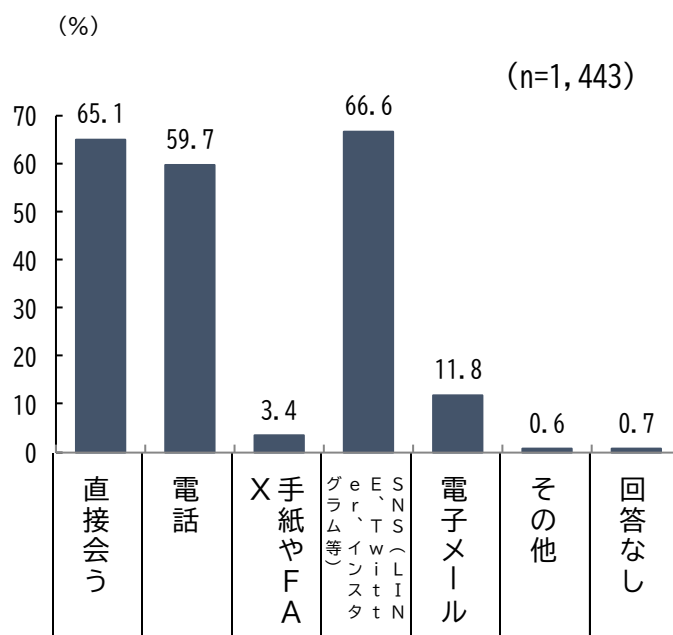
第1位「携帯電話・スマートフォン」(93.6%)、第2位「パソコン」(19.1%)



3.コミュニケーション方法

- 成人 あなたは同居していない家族や友人とどんな方法でコミュニケーションをとりますか。(あてはまるものすべてに○)

第1位「SNS」(66.6%)、第2位「直接会う」(65.1%)、第3位「電話」(59.7%)

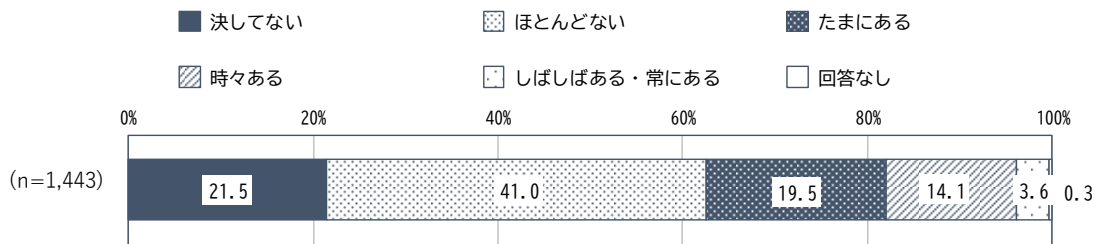


4. 社会とのつながり（孤独感）や暮らしぶりの状況

1. 孤独感

- 成人 あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。（1つに○）

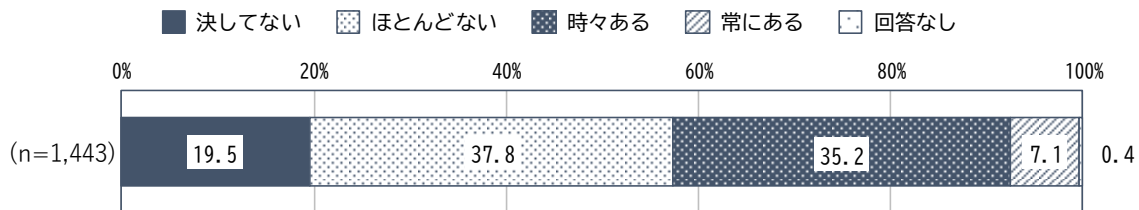
「しばしばある・常にある」3.6%、「時々ある」14.1%



2. 人付き合い

- 成人 あなたは、自分には人づきあいが無いと感じることがありますか。（1つに○）

「常にある」7.1%、「時々ある」35.2%

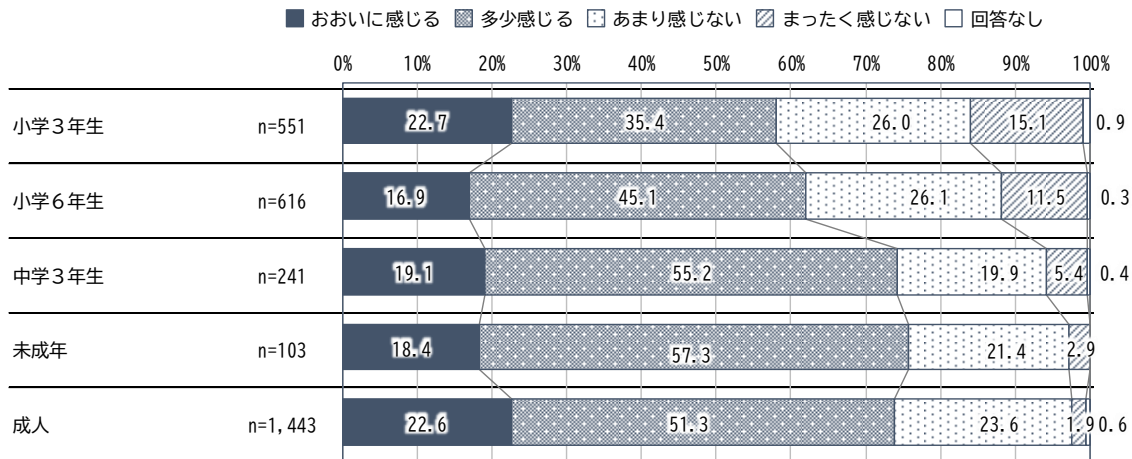


5. こころの健康

1. ストレスについて

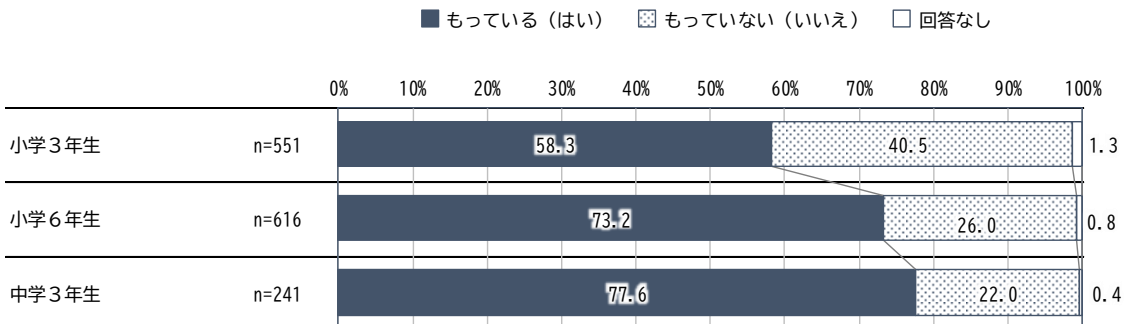
- ストレスを感じることがありますか。(小学3年生にはストレスを“イライラ、モヤモヤ”と表現)
(1つに〇)

“感じる”（「大いに感じる」＋「多少感じる」）：小学3年生 58.1%、小学6年生 62.0%、
中学3年生 74.3%、未成年 75.7%、成人 73.9%



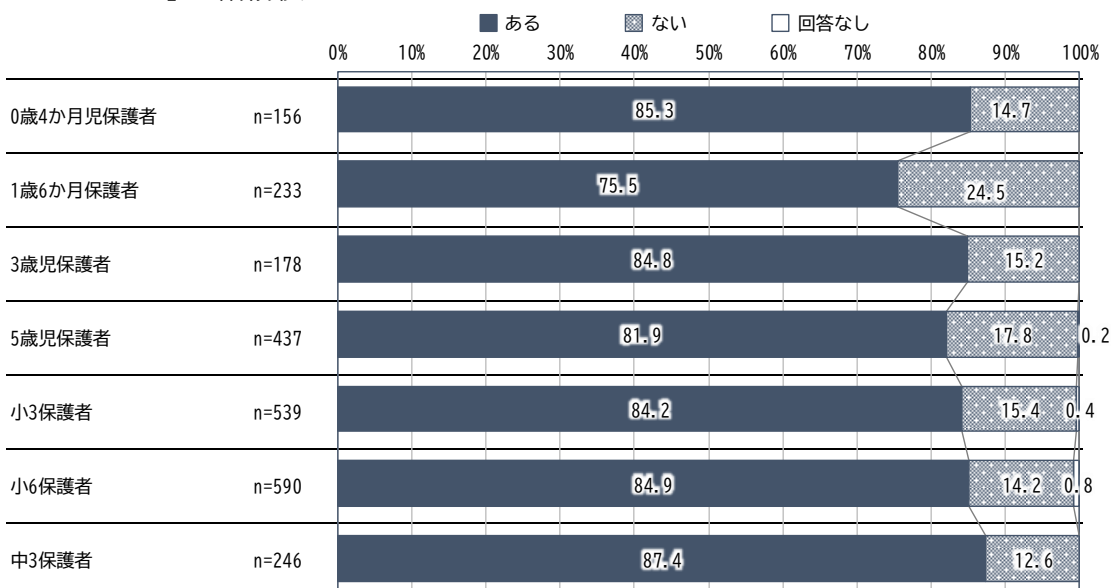
- 自分なりのストレスの発散方法をもっていますか。(小学3年生には、“イライラやモヤモヤした気持ちを減らす方法がありますか”と質問)(1つに〇)

「もっている」：小学3年生 58.3% 小学6年生 73.2% 中学3年生 77.6%



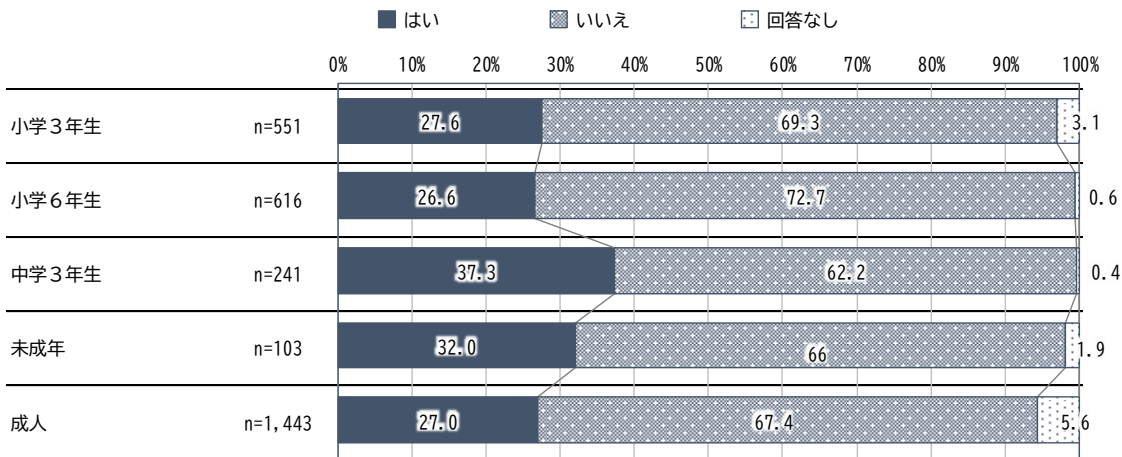
- 子育てをする中で、ストレスを解消する方法をもっていますか。(1つに〇)

「ある」8割前後



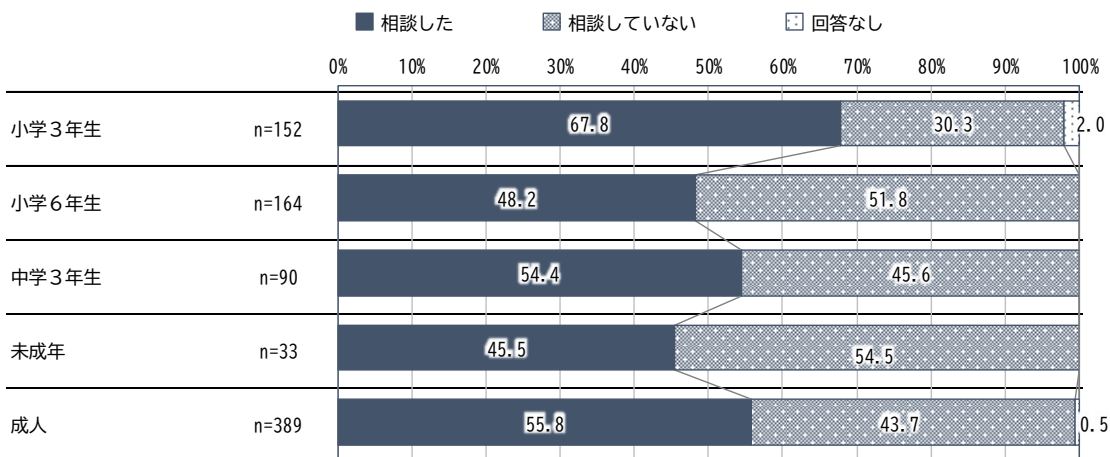
■ ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことがありますか。(小学3年生には“イライラやモヤモヤした気持ちが大きくてこまったことはありますか”と質問)(1つに○)

「はい」：小学3年生 27.6%、小学6年生 26.6%、中学3年生 37.3%
 未成年 32.0%、成人 27.0%



■ そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(小学3年生には“こまったときにだれかに話しましたか”と質問)(1つに○)

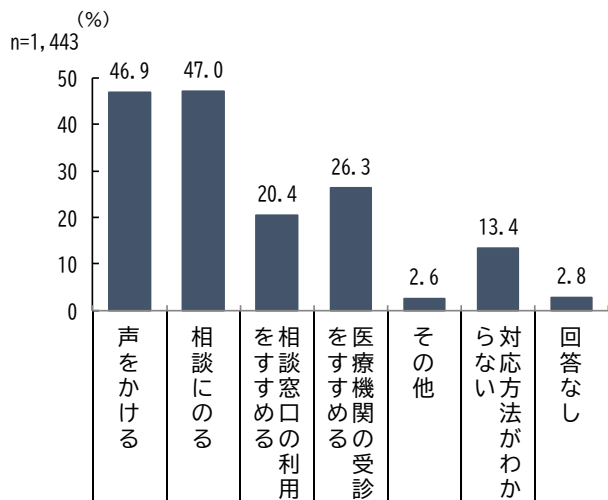
「相談していない」：小学3年生 30.3%、小学6年生 51.8%、中学3年生 45.6%、
 未成年 54.5%、成人 43.7%



2. こころのケアへの対応

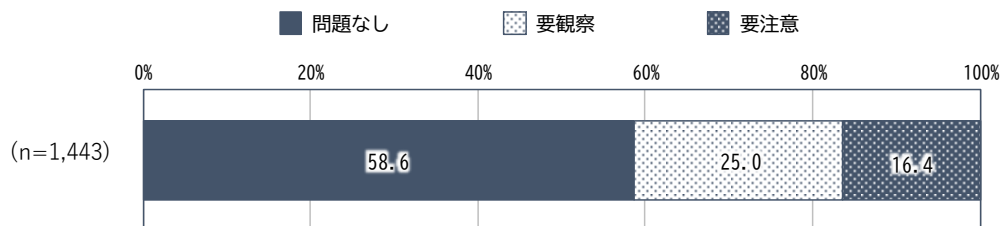
■ 身近にこころのケアが必要な人がいたら、どう対応しますか。(あてはまるものすべてに○)

成人：第1位「相談にのる」、第2位「声をかける」、第3位「医療機関の受診をすすめる」



■ K6

「要注意」：16.4%



※K6とは、うつ病や不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的とし、心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。

- 1 神経過敏に感じましたか
- 2 絶望的だと感じましたか
- 3 そわそわ、落ち着かなく感じましたか
- 4 気分が沈み込んで、何か起こっても気が晴れないように感じましたか
- 5 何をするのも骨折りだと感じましたか
- 6 自分は価値のない人間だと感じましたか

の質問に対して

「いつも」4点、「たいてい」3点、「ときどき」2点、「少しだけ」1点、「まったく」0点とし、合計点数が、

5点未満：問題なし

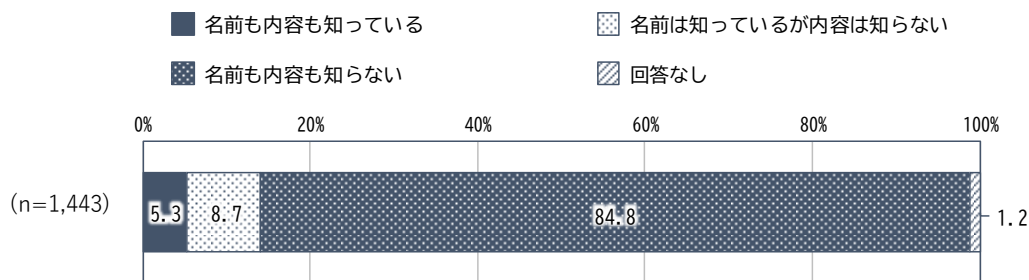
5～10点未満：要観察

10点以上：要注意

3. ゲートキーパー

■ あなたは、ゲートキーパーを知っていますか。(1つに○)

“知っている”(「名前も内容も知っている」+「名前は知っているが内容は知らない」):14.0%

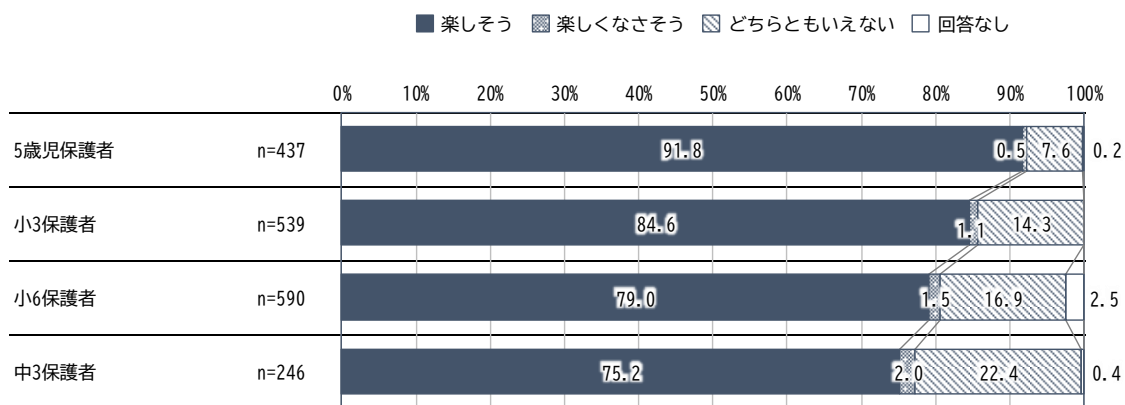


4. 子どもと親の関わりについて

<保護者>

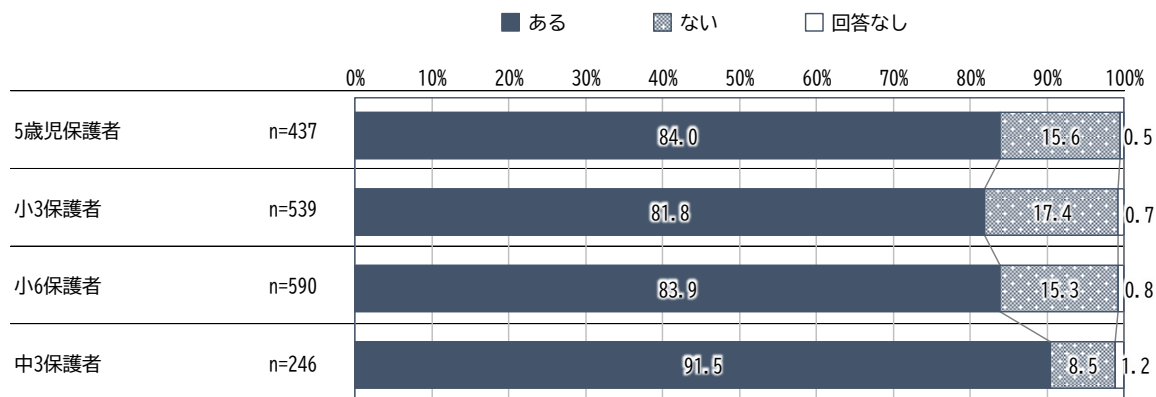
■ お子さんの学校(園)生活は楽しそうですか(1つに○)

「楽しそう」7~9割



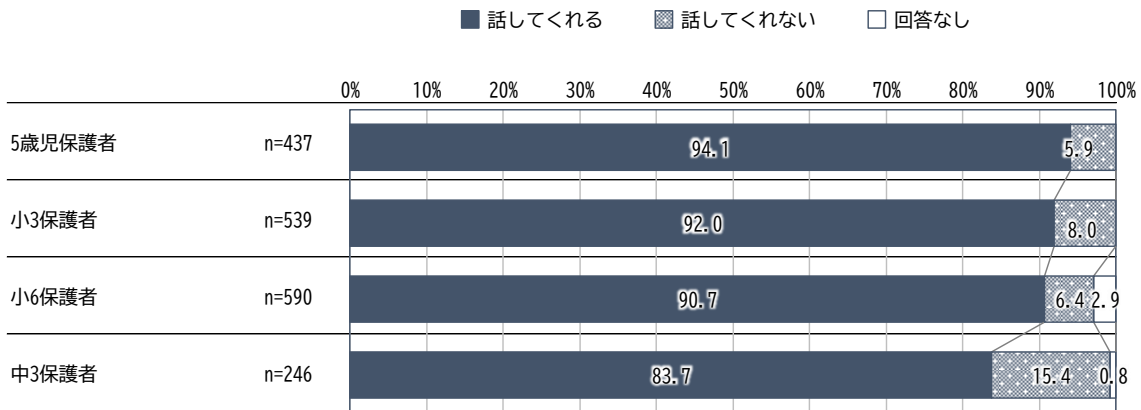
■ お子さんの話を聞くゆとりはありますか。(1つに○)

「ある」8~9割



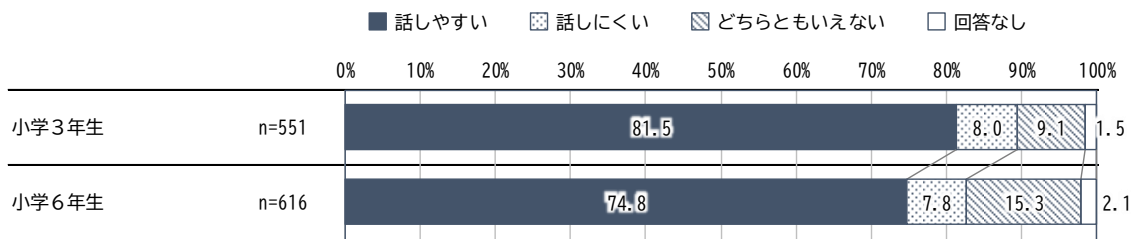
■ お子さんは、学校（園）や友達のことについて話してくれますか。（1つに○）

「話してくれる」8～9割



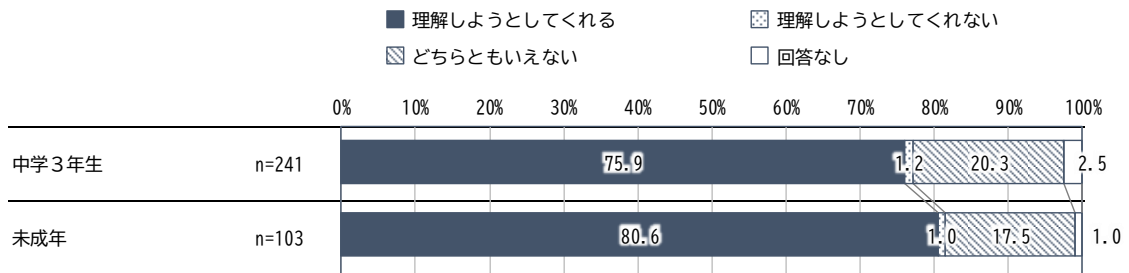
■ お父さんか、お母さんのどちらか一人でも、学校や友達のことを話しやすいですか。（1つに○）

「話しやすい」：小学3年生 81.5% 小学6年生 74.8%



■ お父さんまたはお母さんは、あなたのことを理解しようとしてくれますか。（1つに○）

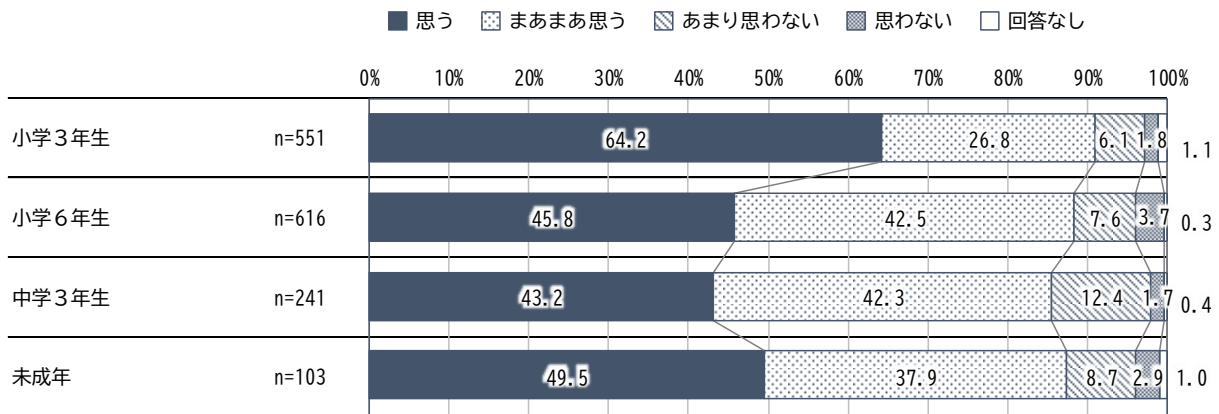
「理解しようとしてくれる」：中学3年生 75.9%、未成年 80.6%



5. 自分について

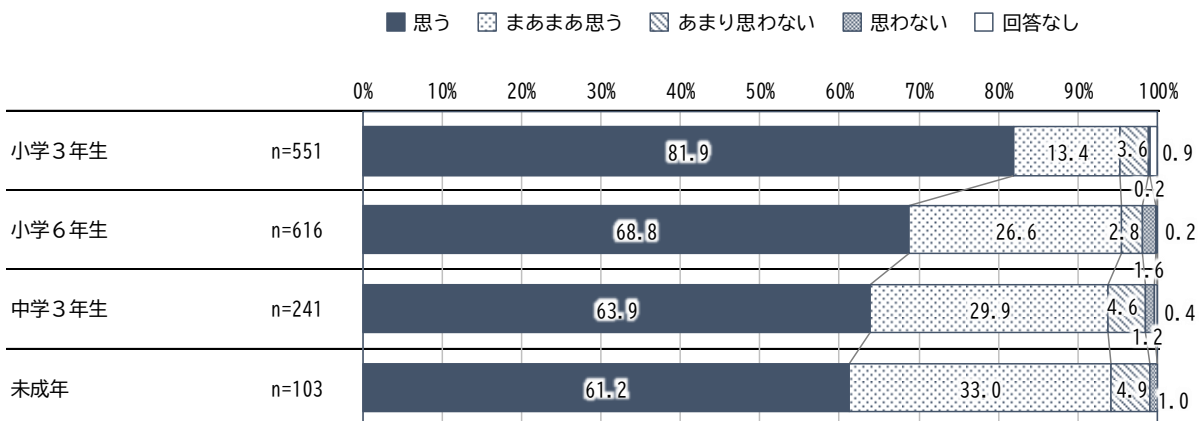
■ 自分のことを大切に思いますか。(1つに○)

“思う”(「思う」+「まあまあ思う」)：小学3年生 91.0%、小学6年生 88.3%、
 中学3年生 85.5%、未成年 87.4%



■ 自分のことを家族が大切に思っていると思いますか。(1つに○)

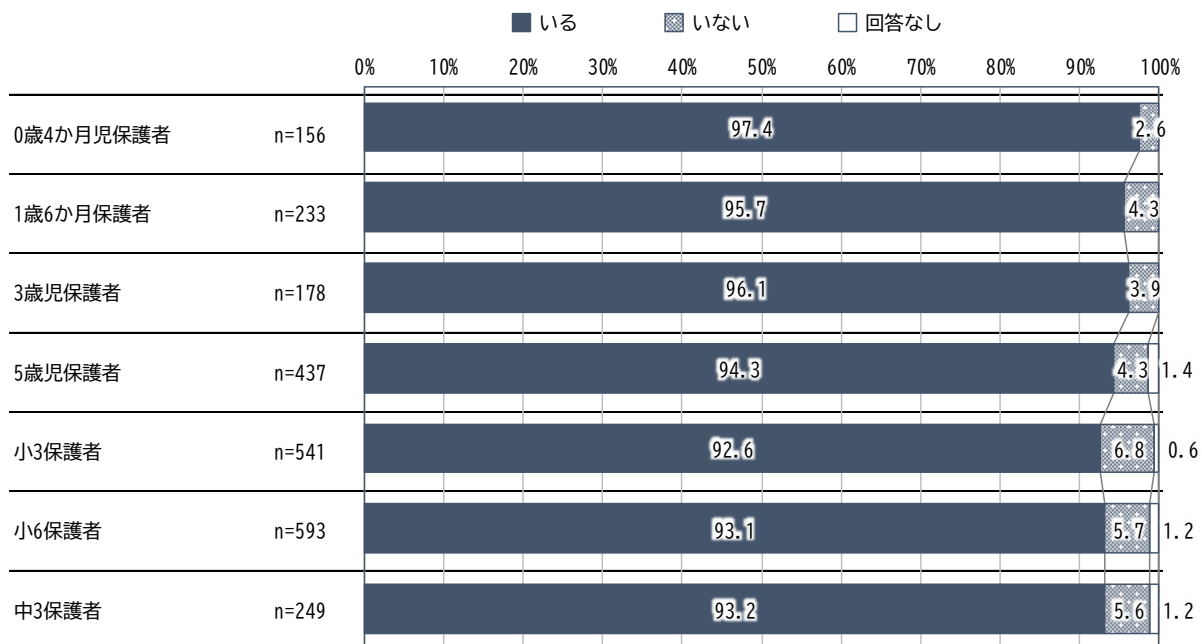
“思う”(「思う」+「まあまあ思う」)：小学3年生 95.3%、小学6年生 95.4%、
 中学3年生 93.8%、未成年 94.2%



6. 相談相手について

■ 子育てについての相談相手はいますか。(1つに○)

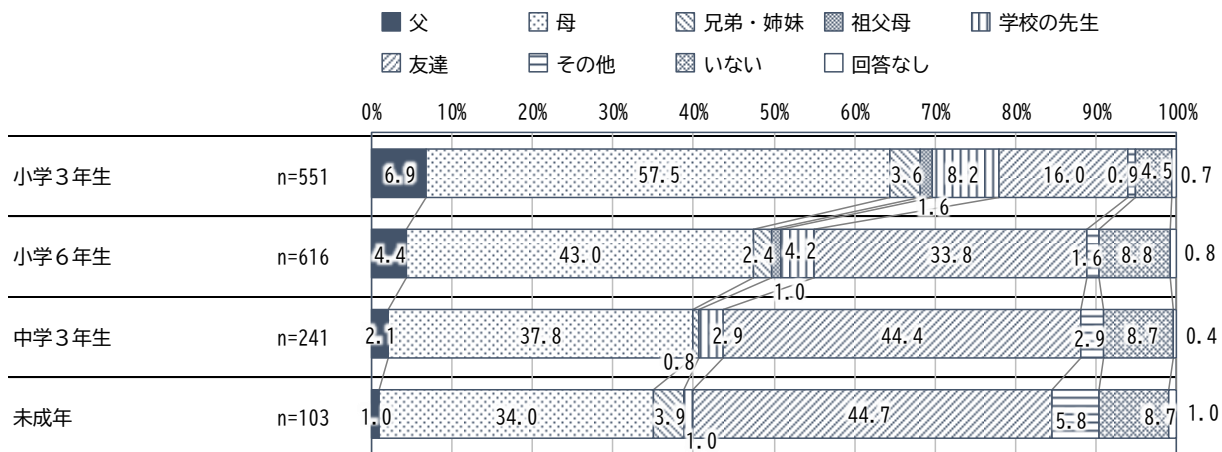
「いる」：9割以上



■ 最初に悩みを相談する相手はだれですか。(1つに○)

小学3年生「母」「友達」「学校の先生」、小学6年生「母」「友達」「いない」

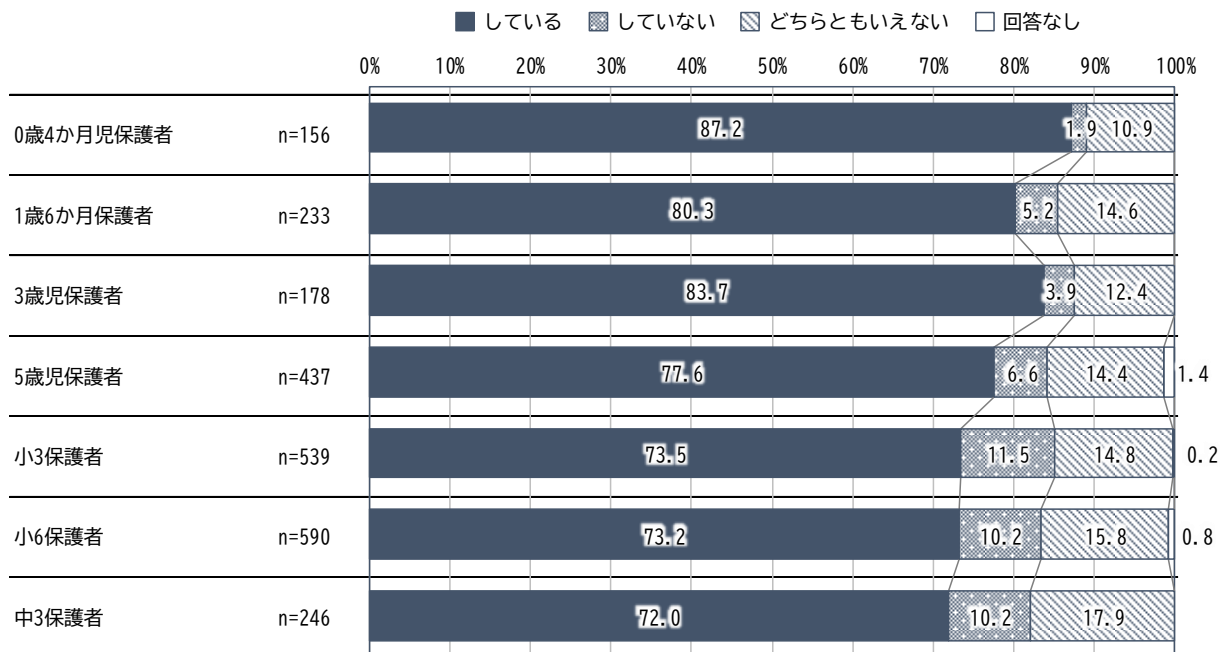
中学3年生「友達」「母」「いない」、未成年「友達」「母」「いない」



7. 子育てについて

■ 子育てを夫婦（家族で）していると思いますか。（1つに○）

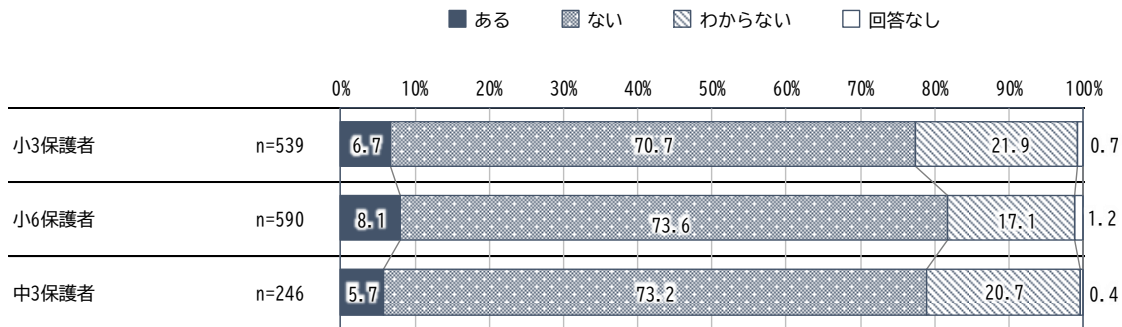
「している」：7～8割以上



8. 虐待について

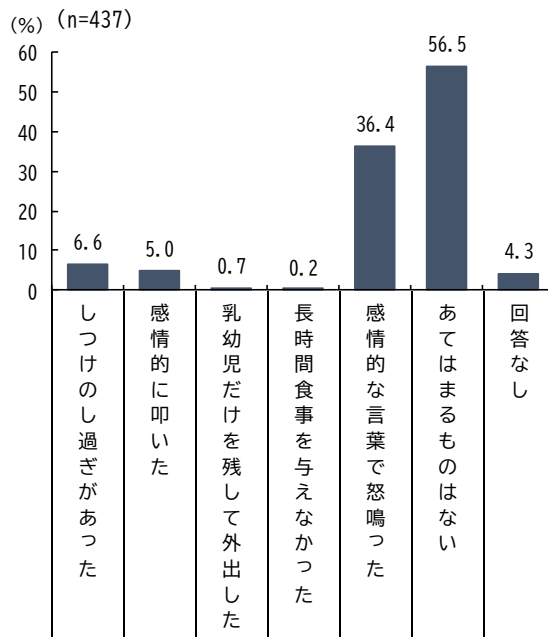
■ 今までに虐待をしたと思いがたることがありますか。(1つに○)

「ある」：小3保護者 6.7%、小6保護者 8.1%、中3保護者 5.7%



■ お子さんに対して、この数か月の間にご家庭であった行為はありますか。(5歳児保護者) (あてはまるものすべてに○)

「あてはまるものはない」が 56.5%と最も多く、次いで「感情的な言葉で怒鳴った」36.4%、「しつけのし過ぎがあった」6.6%、「感情的に叩いた」5.0%



6. 健康日本21安城計画 指標の達成状況

指標	目標値	対象	今回調査 (%)
栄養バランスに配慮している人の割合を増やす	68%以上	成人	63.5
8020 達成者を増やす	50%以上	75～84 歳	50.2
栄養バランスに気をつけている人 を増やす	79%以上	1 歳 6 か月児保護者	82.0
		3 歳児保護者	79.2
からだを使った遊びや運動をさせ ている人を増やす	93%以上	0 歳 4 か月児保護者	80.1
		1 歳 6 か月児保護者	86.7
		3 歳児保護者	84.3
朝食を欠食する子を減らす	2.7%以下	小学 6 年生	5.0
運動をしていない子を減らす	34%以下	高校生	33.0
未成年者の喫煙をなくす	0.0%	中学 3 年生	0.8
未成年者の飲酒をなくす	0.0%	中学 3 年生	8.3
相談できる人がいない子をなくす	0.0%	小学 6 年生	8.8
過度のストレスを抱える子を減らす	22%以下	高校生	17.6
子育てに関する相談相手のいない 人を減らす	3.9%以下	小学 3 年生保護者	6.9
過度のストレスや悩みを相談でき る人の割合を増やす	男性 47 女性 77 以 上	成人 (男・女)	男 37.3
			女 70.3
地域の活動に参加している人を増 やす	40%以上	成人	29.8

第2章 eモニター調査

1. 調査概要

■ 1 調査の目的

安城市では、平成30年度に策定した「いのち支える安城計画（安城市自殺対策計画）」の最終評価及び次期計画の策定のための基礎資料として活用するにあたり、市民のメンタルヘルス等を把握し、今後効果的な保健事業を推進していくための課題を探索することを目的としました。

■ 2 調査対象

18歳以上のモニター登録者のうち抽選した778人を調査対象としました。

■ 3 調査期間

令和5年6月21日～6月28日

■ 4 調査方法

eモニターでの配信・回収

■ 5 回収状況

対象数	回収数	(%)
778	688	88.4

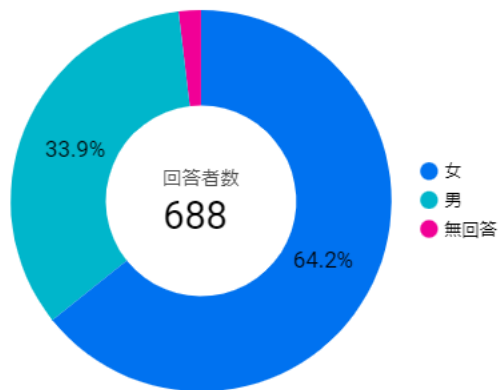
2. 調査結果

性別は「女性」が64.2%、男性が33.9%

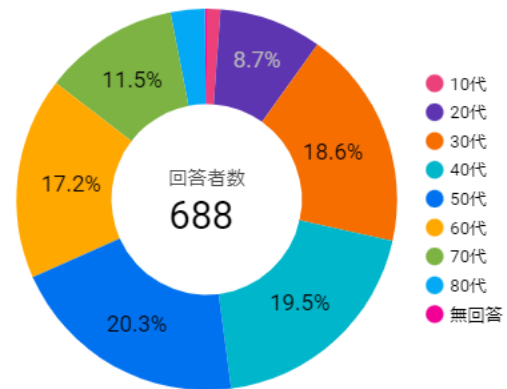
年代は「50代」が20.3%と最も多く、次いで「40代」(19.5%)、「30代」(18.6%)

K6は「問題なし」が55.8%、「要観察」が26.0%、「要注意」が18.2%

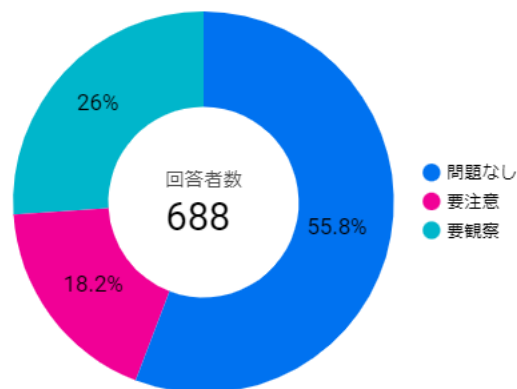
■性別



■年代



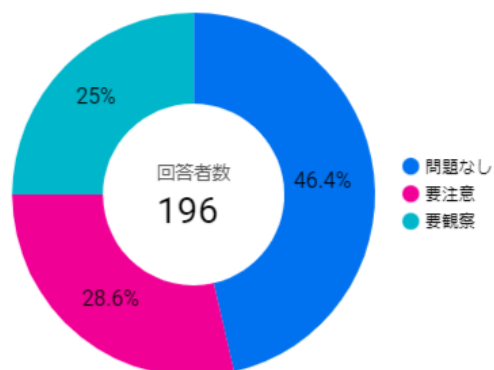
■Kessler 6 scale (こころの健康チェック)



K6とは・・・6項目の設問の合計値による尺度
「いつも」 4点
「たいてい」 3点
「ときどき」 2点
「少しだけ」 1点
「まったくない」 0点

【30歳代以下】

■Kessler 6 scale (こころの健康チェック)



10代～30代の各年代は「問題なし」が50%以下
30歳代以下では「問題なし」が46.4%

1. ストレスについて

【全体】

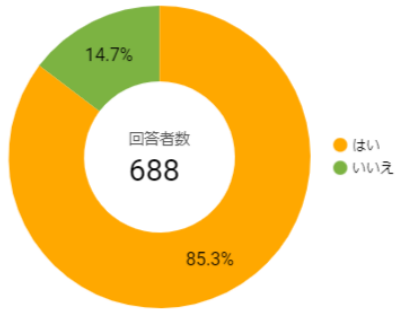
ストレスを感じる事が「ある」：85.3%

自分なりのストレス解消を「持っている」：80.5%

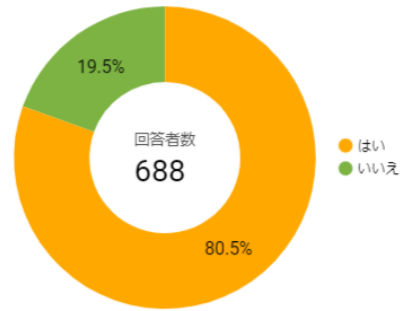
ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことが「ある」：42.2%

逃げ出したいと思ったときに「相談していない」：45.9%

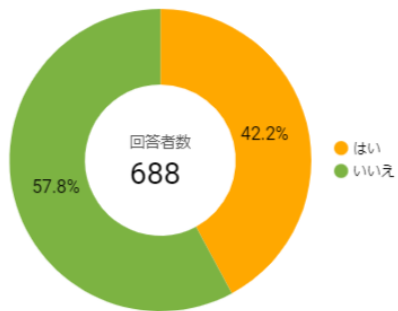
■ストレスを感じるがありますか。



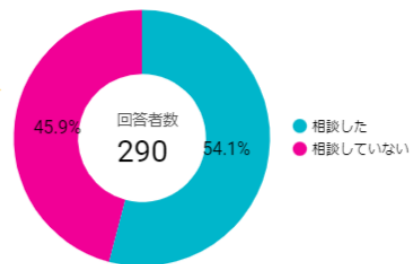
■自分なりのストレス解消方法を持っていますか。



■ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことがありますか。



■「はい」と回答した方
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

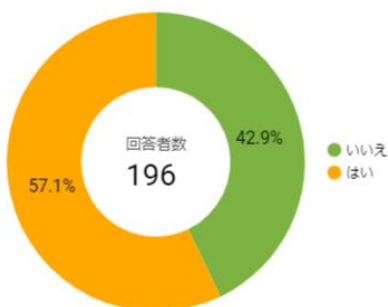


【30歳代以下】

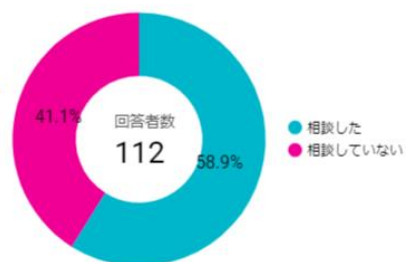
10代～30代の各年代は「逃げ出したいと思うことがある」が50%以上

30歳代以下では「逃げ出したいと思うことがある」が57.1%

■ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことがありますか。



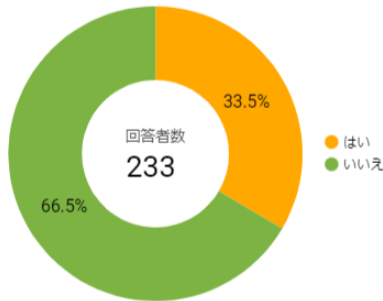
■「はい」と回答した方
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。



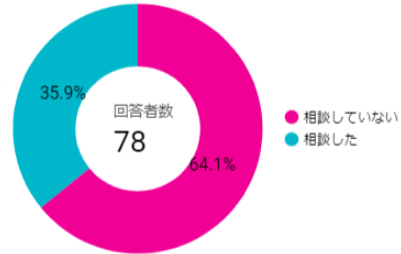
【男性】

男性では、逃げ出したいと思ったときに「相談していない」：64.1%

■ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことがありますか。



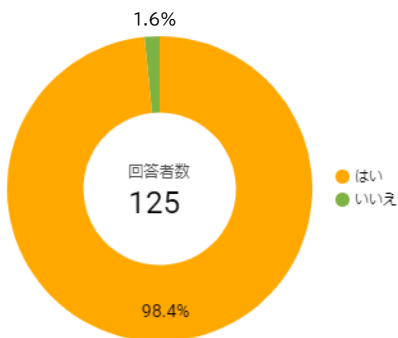
■「はい」と回答した方
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。



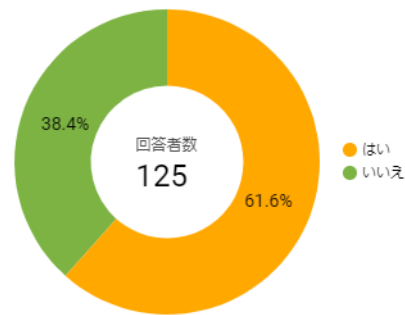
【K6「要注意」者】

K6「要注意」者では、ストレス解消方法を「持っていない」：38.4%

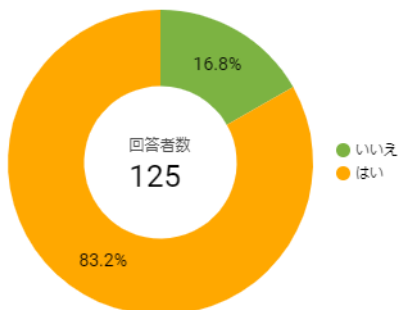
■ストレスを感じることがありますか。



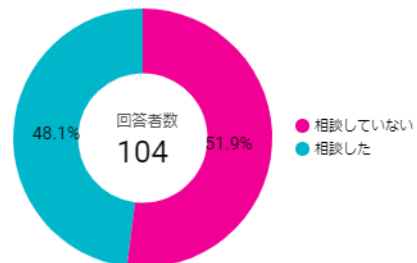
■自分なりのストレス解消方法を持っていますか。



■ストレスが大きくて逃げ出したいと思うことがありますか。

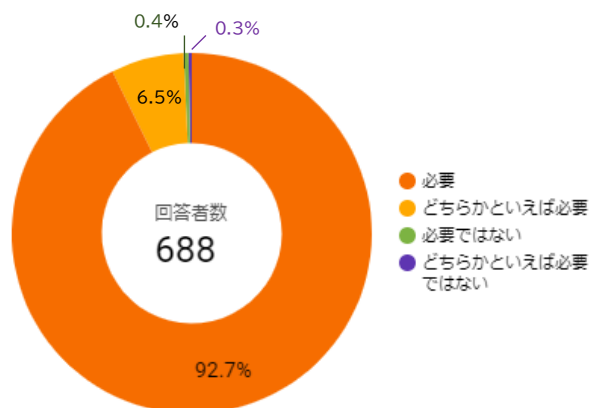


■「はい」と回答した方
そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

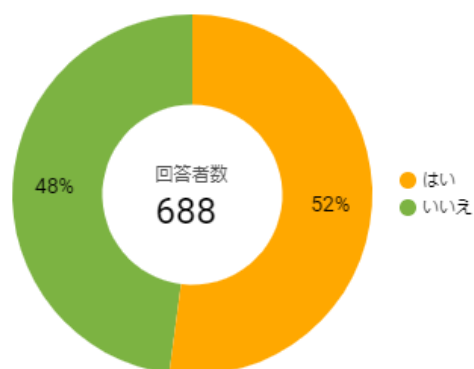


2. 健康のための睡眠や休養

■ 普段の生活において、健康のために睡眠や休養を取る必要があると思いますか。



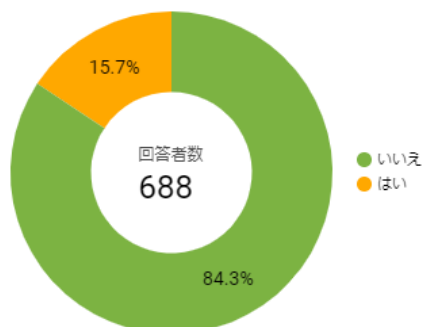
■ 日頃の睡眠は、あなたにとって十分だと思いますか。



3. ゲートキーパーの認知

「はい」 15.7%

■ 「ゲートキーパー」という言葉の認知



第3章 ヒアリング調査

1. 調査概要

■ 1 調査の目的

安城市では、令和5年度に「いのち支える安城計画（安城市自殺対策計画）」、令和6年度に「第4次健康日本21安城計画」を策定するための基礎資料として活用するにあたり、関係機関、企業等の健康やメンタルヘルス等における現状と課題を把握し、今後効果的な保健事業を推進していくための課題を探索することを目的としました。

■ 2 調査対象

- ① 事業所ヒアリング：3か所
- ② 児童クラブ：2か所
- ③ 児童クラブ支援員の会議：1か所
- ④ 母子保健担当者情報交換会：1か所

■ 3 調査期間

- ① ～③ 令和5年8月
- ④ 令和5年9月

■ 4 調査方法

対面によるヒアリング

2. 事業所ヒアリング調査

株式会社近藤工作所

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の日々の健康管理は朝礼で実施。睡眠状況など、体調の変化を把握 ・従業員同士のコミュニケーションを大切にした健康づくりを継続 ・2年ほど前から女性従業員はバディ制度を導入（この10年間女性社員の離職率0%達成。「あいち女性輝きカンパニー」認定） ・外部相談機関を設置したり、スマホでアンケートを実施するなど、相談や意見が伝えやすい環境づくりに配慮している。 ・ストレスチェックの実施 ・100円で購入できるお弁当にヘルシーメニューを取り入れ、食事面をサポート
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙率低下の取り組みを推進し、将来的には健康経営優良法人「ブライト500」の認定を目指す
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・業種や年齢に関わらず、同じ目的に向かって取り組むなど風通しのよい環境づくりを目指す

新英金属株式会社

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・禁煙を促すため、非喫煙者を対象に「健康手当」の導入 ・外部機関の協力のもと、アンケート・プログラムの実施、メンタルヘルスサポート窓口、会社契約カウンセラーを設置し、意識付けている ・女性に対しては会社負担で、乳がん・子宮がん検診を補助 ・健康教育の実施、動画配信、ICT（運動、健康促進アプリ）の活用で興味付けている ・働き方改革（フレックスタイムの導入）により残業時間が削減。プライベートが充実し、離職率減少に繋がっている
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健診実施機関や上司と協力し、健診結果で要再検査となった者の受診率向上を目指す
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の健康セミナーやイベントを行い、自身の健康を見直すきっかけづくりを目指す

株式会社デンソーエレクトロニクス

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進課として、保健師、看護師、人事経験者などで構成され、専門知識と人事制度を合わせて従業員の健康をサポート ・社内で女性検診を業務時間内で行い、女性の受診率UP ・復職支援プログラムを導入し、メンタル不調者の再発の軽減 ・再検査の報告を義務付け、再検査受診率は100% ・特定保健指導にICTを導入（実施率50%から80%に上昇） ・委託会社の協力のもと、ヘルシーメニューを取り入れ、食事面をサポート
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・若手従業員へ健康意識を高める支援の検討 ・ICT保健指導を導入し、指導実施数は増加したので、指導効果が表れるまで継続を促す ・楽しく健康づくりに取り組める様な教室、イベントを開催し、一人ひとりの行動変容を促す
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各部署に「健康づくり」のリーダーを配置し、健康づくりに対する意識を高める ・市や他の企業と連携して事業展開したり、各種教室の運営、検討を目指す

3. 児童クラブ

児童クラブ支援員

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過剰に心配しすぎる保護者と、子どもに関心がない保護者の二極化が進んでいる ・ 子どもの年齢によりストレス反応や SOS の出し方が違うので細やかな観察が必要 ・ 低年齢な児ほど、悩みやストレスに気付きにくい。困っていることが上手く言葉で伝えられず、身体的な訴えとして表れることもあるため、変化を見逃さないよう配慮している ・ 中学年以上でも支援員へのスキンシップを求める児は多い ・ 好きな支援員には心を許し、相談をしてくる子どももいる ・ 「児童クラブの先生」という気兼ねない関係で相談し易いと感じている保護者もいる ・ 令和5年度から「児童クラブ巡回アドバイザー」を配置し、専門的な視点で見守っている。児童の変化に気付いた時は、市や学校、教育委員会と情報共有し、互いに連携しながらケアしている。 ・ 子どもの変化に気付いて親に伝えるが、理解を得られないこともある ・ 乱暴な言動から何らかの悩みを抱えているのではと感じる子もいる ・ 活動中に輪から外れて1人を好む子など気になる子にはよく声をかける
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談を受けても1対1になれる環境が作れない ・ 保護者が働いており、支援員の勤務時間も短く、タイミングよく話ができない ・ 問題を抱える家庭の状況がそれぞれ違うので、十分配慮した関わりが必要

児童

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低学年になるほど、悩みがどのようなものかもわからないような子どもが多い ・ 何を「悩み」と考えるかは子どもによってとても差があった ・ 困っている子や悩んでいそうな子へ「声をかける」といった回答が多かった ・ 一方で「そっとしておく」という回答もあり、学年によって差があった
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困り感を持ったことに気付ける環境、声をあげやすい環境づくりが必要 ・ 友達の SOS に気付いた後の行動について伝えていく必要がある ・ 低学年と高学年とでは悩みの内容やレベル、ストレスへの反応など全く違うため、それぞれの発達過程に合った細やかな対応が必要

4. 母子保健担当者情報交換会

<p>女性を取り巻く現状</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児休業については、だいたい取る方が増えてきたが、経済的格差もできて、必ずしも育児休業が取れない人も増えてきている。 ・ 産後の職場復帰への休養期間（育児休業）が短くなっている。短くせざるを得ない人が増えてきている ・ 以前よりは、退院直後から産後ケアに、父親も一緒に来院されることが増えた ・ 共働きで働く夫婦にとって、妻だけでなく夫も育児休業を取得する夫が増えた。 ・ 高齢での妊娠や出産は親も高齢のため支援が受けられないことや、男性の育児休業取得などで夫婦のみで育児をする家庭が増えている様になっている ・ 不妊治療による多胎の増加傾向 ・ 子育て中の女性に対する支援者の減少の傾向 ・ メンタル的な弱者の表面化傾向、精神疾患をもった妊婦 ・ 育児支援者の高齢化で育児支援者不足となる可能性が上がる
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夫婦で助け合いながら育児に取り組むことは、女性の産後うつ予防につながるので、今後も、男女問わずに、育児休業が取得しやすい環境の整備が進んでほしい ・ 子育てにおいて、幼少期から母性父性を養う教育が必要 ・ 低年齢からのカリキュラムの元で、命の教育・自分の身体を知る、守るなどの性教育ができるとよい ・ 男性に対する育児支援者としての知識が少ないため、育児休業を取る意味について、何が自分にできるか、やるべきかを伝える必要がある ・ 30代後半から40代前半の方が、更年期に起こりやすい、症状や対処方法などの情報を得る機会があるとよい。 ・ 望まない妊娠を避けることや、自身の体調の変化に気づくこと、相談できる場所があることを思春期に伝えることが重要 ・ 子育てを親が抱え込むのではなく、地域全体で子どもを見守ることが必要であり、こういった環境づくりが求められている。 ・ 20代からの不妊医療に対する教育
<p>今後の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティ・産後ヨガ、ベビーサイン、ベビーマッサージ、子育て井戸端会議などを実施。 ・ 妊娠前にPMS（月経前症候群）であった女性が多く、授乳期間の終了後に、産婦人科を紹介し適切な治療（漢方や低用量ピル等の服用）を早め開始 ・ 学校の養護教員、企業や自治体の保健師、産婦人科、助産院の連携 ・ 保育・教育機関などと連携 ・ 望まない妊娠をした場合の避妊指導 ・ パパママ教室などで夫に対する「産後サポートとは」共に子を育てるであり、手伝いではないことを伝える ・ 妊婦の通院後のフォロー ・ 中期中絶に対して、中絶後の受胎調節指導 ・ 産後ケアとして、周産期のメンタルヘルスと育児指導

